

巻頭言「オオルリシジミたちが飯山を元気にしてくれる」

飯山市公民館長 服部秀人

本会の活動に地道に取り組んでおられる井田秀行会長始め会員の皆様に、飯山市公民館長と致しまして敬意と感謝を申し上げます。また、本会の会員であることを光栄に存じます。

会の活動が飯山市環境基本計画に紹介される

飯山市は10年ぶりに市の環境基本計画を見直します。昨春、環境審議委員会が設けられ、2次計画案の検討が重ねられてきました。井田会長と私もその審議委員を務めています。そして2月16日、その計画案が市長に答申されました。委員会では、環境保全の大切さに加え、原発事故による放射能についても討議されました。また、環境保全に関わる市民活動事例として、本会が行っている生物多様性保全のための里山整備活動が評価され、その基本計画に紹介されることになっています。

自然の恵みに感謝を

私は1946年(昭和21年)生まれですが、中学生の頃、即ち1960年頃までは、余り機械に頼らない農業形態であったように思います。おそらく私が、両親の手伝いではありましたが、牛馬による農耕を経験した最後の世代でしょう。そんな農村風景の頃、ここ豪雪の飯山では、秋の取り入れ前に、裏山で、こたつ用の炭を焼いたり、囲炉裏で燃すボヤ(そだ)を伐ったりして、冬に備えたものです。伐る木はナラなどの大木ではなく、根元の直径が2~3cmの雑木で、それを私らはボヤと呼びました。秋に伐るボヤは燃料にし、夏伐るときは、キウリやツル豆を這い上がらせるクネに使いました。ボヤは2~3年で再生するので、正に再生可能エネルギーであり、サスティナブル・ライフでした。生活に必要な量だけを、山に感謝しながら、山から戴く生活でした。

大量消費時代が…

私が高校3年の秋、東京オリンピックが開かれました。長野市の外れを聖火ランナーとして走ったのが、私の懐かしい自慢です。そんな頃、私の生家の裏山にあったブナの原生林がパルプ原料として買われて行きました。そこは多様な生物が棲み、集落の水源涵養林でもあったのです。その頃から大量消費時代、自然破壊、…経済大国・日本へと目覚ましい発展(?)を遂げたのですが…。

キノコ、綺麗好き

飯山市の貴重な国指定天然記念物・黒岩山の里山整備・間伐ボランティアに参加して、嬉しいことを知りました。間伐した翌年にはカタクリが咲き乱れ、翌々年には、そこへキノコがいっぱい出るので。そう言えば、「キノコ綺麗好き」と言って、雑木の密生した藪をキノコは嫌うのです。カタクリは藪の下では、ジッと耐えて、陽の光が射し込むのを待ち続けるそうです。昔、子供の頃、キノコを採ったり、カタクリをよく見かけたのは、山からボヤを伐り出していたからだということが理解でき、里山保全の大切さを実感することができました。

オオルリシジミやギフチョウたちが飯山の子どもたちに誇りを…

絶滅危惧種の蝶たちが飯山に生きており、みんなで大切に守って行くことにより、飯山の素晴らしい自然を子どもたちが誇りに思ってくれると思います。そして、郷土への愛着も生まれると思います。

また、本会の活動が、北信濃・飯山の発信となり、素晴らしい自然を求めて、多くの人々が飯山を訪れるようになると思います。新幹線が3年後に飯山に開通します。新飯山駅に降りるお客様を蝶たちが出迎えてくれることを信じて、みんなでズクを出して汗を流したいと思います。

末筆ながら、この会の発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

お知らせ

「北信濃の里山を保全活用する会・平成23年度定期総会」の開催と 「里山活性化プロジェクト講演会・オオルリシジミの舞う信州を未来へ」への参加について

幾分雪解けが進み、ようやく春の気配が感じられるようになり、もうすぐ生きものたちの活動が始まる頃となりました。今年の当会の活動計画等について審議していただくため、定期総会を開催したいと思います。

また、「生物多様性ながの県戦略」が本年2月に策定され、これを推進するための一環として「里山活性化プロジェクト講演会・オオルリシジミの舞う信州を未来へ」が長野市松代で開催されます。

ということで、

当会の総会を、「里山活性化プロジェクト講演会」と同日の4月14日（土）に計画しました。

午前中で総会を終了し、午後は会員の方々とまとまって講演会に参加できるようにしたいと思います（バスを借用予定）。総会と講演会、合わせて大勢の方々の御参加をお願いします。

当日（4/14）の概要など・・・

1 「北信濃の里山を保全活用する会・総会」

(1) 日時・日程 平成24年4月14日（土）10:00～11:30

9:30～受付開始、10:00～開会・議事、11:30～終了・講演会場へバスで移動

(2) 開催場所 飯山市公民館（飯山市飯山1436-1 TEL：0269-62-3342）

2 「里山活性化プロジェクト講演会・オオルリシジミの舞う信州を未来へ」

(1) 日時・日程 平成24年4月14日（土）13:00～16:30

12:30～開場、

13:00～第1部開会

特別講演「絶滅に瀕しているチョウたち」（東大総合研究博物館助教・矢後勝也さん）

基調講演「りりいからのメッセージ」（信州大学大学院博士課程・江田慧子さん）

絵本「ちょうちょうのりりい」読み聞かせ（SBCアナウンサー・三島さやかさん）

15:10～第2部開会

パネルディスカッション「オオルリシジミと里山活性化」

※信州大学農学部教授・中村寛志先生がコーディネーターを務められ、パネリストとして、当日講演される矢後さん、江田さん、東御市・安曇野市・飯山市のオオルリシジミ保護組織代表の方々と（当会からは井田会長）が登壇します。

16:30～帰途、飯山公民館には17:30頃帰着予定。

(2) 開催場所 松代文化ホール（長野市松代町松代515-2 TEL：026-278-4373）

3 その他

飯山市公民館から長野市松代の講演会場までの交通手段はバスを用意しますので、ご利用される方は飯山市公民館内の当会事務局（公民館内文化振興係）へ4月6日（金）までに御連絡ください。参加費は無料です。関心のある方お誘いあわせのうえ、お越しください。

総会のみ、里山活性化プロジェクト講演会のみでの参加でも結構です。直接、講演会に参加される方は、会場の場所など同封のチラシを参考にしてください。

昼食は各自ご用意ください。

また、本年の活動に対しての要望など、事務局までお寄せいただけましたら幸いです・・・。



・オオルリシジミ関連書籍の紹介

県内でオオルリシジミを研究されている方々が、関連する本を出版されています。今後の保護活動を進めるにあたって参考になることが多いと思います。今度の「里山活性化プロジェクト講演会」でも、話題として取り上げられるものもありますので、一読されてみてはいかがでしょうか・・・。



「ちようちよのりりい」 オオルリシジミのおはなし

著者：江田慧子 作・さくらい史門 絵
出版：オフィスエム（2011年9月1日発行）
体裁：A5判 32ページ
図書コード・ISBN：978-4-904570-39-5 C8745
価格：1,200 円（税込価格1,260 円）

著者は信州大学農学部AFC昆虫生態学研究室で蝶の研究をしている江田慧子さん。専門的な蝶の世界を、子ども向けに擬人化し、絵本作家のさくらい史門さんが描く親しみやすい水彩画により、科学絵本として表現しました。

主人公はオオルリシジミの“りりい”。天敵の脅威にさらされながらも、卵から生まれて成長し、最後はちようちよになって大空に羽ばたいていきます。その後は、2週間で産卵などの次世代を残す活動を終え、儚く、劇的な一生を紹介。絵本を通じて子どもたちに「生命のフシギ」を伝えます。

「蝶からのメッセージ」 地球環境を見つめよう 山岳科学ブックレットvol.7

著者：信州大学山岳科学総合研究所 編 編集 中村寛志・江田慧子
出版：オフィスエム（2011年3月発行）
体裁：A5判 148ページ+カラー口絵4葉
図書コード・ISBN：978-4-904570-34-0 C0045
価格：933 円（税込価格980 円）

長野県は、生息する蝶の種類数が都道府県では最も多く、このことは、自然が豊かな県である証でもあります。そんな蝶たちを調べることで、地域の環境を知ることもできます。県内の蝶の研究者11人が、蝶たちが伝える環境のメッセージを書き綴りました。



北御牧のオオルリシジミ

著者：西尾規孝
出版：自費出版（2011年9月1日発行）
体裁：B5版 80ページ・オールカラー
価格：税込価格4200円

著者は東御市北御牧地区で、オオルリシジミ保護活動に取り組む西尾規孝さん。同地区の生息地の一部で、10年にわたり、毎年、卵～成虫になるまでの生態やアリとの共生、天敵による減少要因等を詳細に調査して、オオルリシジミの生態写真集として完成されました。

厳選した生態写真はどれも非常にすばらしく、顕微鏡を使って撮影したふ化の様子やメアカタマゴバチの卵への寄生生態をとらえた写真は特筆すべきものです。少々値段は張りますが、専門書としては至極貴重なものとの思われます。

・活動報告など

3月10日（土）に「くらしと生物多様性をつなぐ市民・企業・自治体協働シンポジウム」が県松本合同庁舎開催され、事務局が出席しました。長野県は日本屈指の生物多様性が豊かな地域ですが、多くの種で絶滅が心配されており、一般市民と協働して、その保全を進めるためにどうするかを考えていきたいようです。

内容はワークショップ（ワールドカフェ方式）により県内で活動を行っている団体の交流を深めるとともに、この2月に策定された「生物多様性ながの県戦略」が紹介され、行動計画と重点施策が示されました。

重点施策では、5つのP（プロジェクト）が提案され、このうち、「里山活性化P（草原の環境整備など）」、「生きものアンテナP（県民参画型レッドリスト改定事業）」、「地域連携・協働促進P（信州生物多様性ネットワーク【仮称】の設立）」は当会の活動にも関わってきそうです。

なお、「生物多様性ながの県戦略」は県ホームページでも公開されています。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/hogo/biodiv/index.html>

また、3月11日（日）には、松本市山と自然の博物館で、信州大学農学部の中村先生と県環境保全研究所の須賀さんを世話人として、県庁と東御市、安曇野市、飯山市の保護団体の関係者が集まって、オオルリシジミの保護検討会が行われました。

各地の状況報告が行われ、昨年は、安曇野市で自然発生した個体が観察されるなど喜ばしい情報もありましたが、東御市では違法採集者とおぼしき人が見られたなど、依然パトロールが必要な状況とのことでした。

なお、各地のオオルリシジミ保護組織で情報交換を行いながら、調査研究や保全・保護活動を連携して効果的に進めるため「オオルリシジミ研究会」の設立が検討されました。



3/11 オオルリシジミ保護検討会の様子

編集後記

本年は残雪も多く、まだまだ寒い日もありますが、ようやく春の訪れが感じられる季節となりました。

前号でもお知らせしました飯山市での「生物多様性保全計画策定事業」は、市民向け啓発冊子「雪国飯山の動植物観察ガイド・知っておきたい飯山の自然（仮称）」の発行に向け、現在、井田会長始め識者の方々と原稿をチェックするなど、最終段階に入っています。予定よりやや遅れていますが、何とか、4月中にはお披露目できそうです。

4月14日の「里山活性化プロジェクト講演会」は、東御市や安曇野市の保護組織の関係者やオオルリシジミに関心を持つ一般の方々が一同に集まる初めての機会かと思えます。いろいろな方々と交流を持ちながら、北信濃の魅力を発信できれば・・・です。里山保全活用の気運が高まるよう、是非とも参加をお願いします。

また、当日は、各地区のオオルリシジミの保護活動を紹介したパネルを、会場ホールに展示することを計画しているようです。他地区の活動を知ることも、こちらの良い刺激になるかと思えます。

今号の内容はオオルリシジミに偏ってしまいました。次号以降は、また、飯山・北信濃に棲む他の虫や動物・植物なども紹介していきたいと思っておりますので、みなさまからの情報提供などよろしくお願いいたします。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1 4 3 6-1
飯山市公民館内
TEL：0269-62-3342 FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志